

# 火災が発生したら？

火が天井まで燃え広がったときは、避難しましょう。こうなると、もはや素人では消火が困難ですから、あとは消防士にまかせて早めに避難してください。消火は最初の3分間勝負です。万一、火が出たときは初期消火に努めましょう。また、地震の際は、揺れが納まってから火の始末をしましょう。

## 初期消火の③原則

### 1. 早く知らせる



小さな火事でも一人で消そうとしないことが大切。

大声で隣近所に助けを求め、ただちに119番通報しましょう。

### 2. 早く消火する



ボヤのうちに消し止められるかどうかは分かれ目。消火器や

水だけでなく、毛布で覆うなど手近なものをフル活用しましょう。

### 3. 早く逃げる



天井まで火が燃え広がったら、潔くあきらめて避難し

てください。その際、燃えている部屋のドアや窓を閉め、空気を遮断しておきましょう。

## 火元別 初期消火のポイント

### 油なべが燃え出したら



まず、ガスの元栓を締め、消火器で油面を覆うように放射します。消火器がない場合は、なべにふたをして空気を遮断するか、ぬらしたタオルなどでなべ全体を覆いましょう。いったん消火しても、完全に温度が下がるまではなべにふたをしておいてください。

### カーテンやふすまに火がついたら



カーテン、ふすま、障子などは火が燃え上がる時の通り道となります。天井まで燃え広がる前に、水や消火器で消火。間に合わなければ、カーテンはレールから引きちぎり、ふすまや障子は蹴り倒して、足で踏んで消しましょう。

### 衣類に火がついたら



ただちに床や地面に倒れて、転がりながら火を消します。その後、さらに水をかぶって完全に消火してください。風呂場のそばにいるときは、湯船の残り水を頭からかぶるか、湯船の中に飛びこみましょう。

### 石油ストーブから火が出たら



消火器があれば火元に向けて噴射します。無い場合は、毛布や布団をストーブにかぶせるか、バケツ1杯の水を一気にかけてください。火が消えた後も、天板の余熱で再発火するケースがありますから注意しましょう。